

授業マイスター研修(中学校理科)

授業マイスター 西中学校 教諭 神谷 光一

担当指導主事：奥野 隆哉

キーワード：実験観察 ICT活用 意見交流の場 ヒトとのつながり 煮干しの解剖

1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
2月7日（金）	西中学校 神谷 光一 教諭	西中学校 第2理科室	「動物の体のつくりと働き （第2学年）」

2 主な内容

「動物の体のつくりと働き(第2学年)」

「カタクチイワシの煮干しを解剖し、体の内部にヒトと似たような部位が多数存在することに気づくことができる」を本時の目標として、授業を展開した。解剖を通して、ヒトと「同じ部分」「異なる部分」についても考えさせ、イワシが生物であるということ、ヒトもイワシも同じ脊椎動物であるということ、食料はみな生き物であるということを実感させようとした。

① 導入

1人1台 iPad を配布し、カタクチイワシの煮干しの部位を iPad で確認させた。

② 展開

煮干しの解剖手順を iPad で確認させながら、つまようじを使ってカタクチイワシの煮干しを部位別に解剖させた。解剖させた部位をワークシートに置き、iPad で撮影して観察結果を記録させた。

③ まとめ

ヒトと「同じ部分」「異なる部分」について気づいたことを iPad に文字入力させた。グループで共有させた後、数名の生徒の記入したものを電子黒板に映し出し、全体に向けて発表させ、考えを深める活動を行った。最後に、ルーブリック評価のシートを配布し、自己評価させた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ICT を活用して、生徒一人ひとりが主体的に実験観察をすることができるように工夫することができた。
- iPad を通した活発な意見交流の場を設け、考えを深めることができた。
- 煮干しを解剖することで、多様な生物とヒトとのつながりを見出すことができた。

(2) 課題

- 授業の見通しを持たせるため、ルーブリック評価の内容を授業始めに提示すべきであった。
- 実験・観察結果が生徒ごとに異なるような事例で実践し、他者の写真記録を見ることで違いに気づき、自分の考えを深めさせる授業を実践していく必要がある。